

(仮称) 行田羽生資源環境組合
新ごみ処理施設整備運営事業
落札者決定基準書

令和6年1月

行田羽生資源環境組合

(仮称) 行田羽生資源環境組合
新ごみ処理施設整備運営事業
落札者決定基準書

目次

1. 落札者決定基準書の位置付け	1
2. 落札者決定の方法	1
3. 審査の枠組み.....	1
1) 資格審査.....	3
2) 提案審査.....	3
4. 非価格要素審査及び価格審査における点数化方法	4
1) 価格審査の点数化の方法.....	4
2) 非価格要素審査における点数化の方法	5

1. 落札者決定基準書の位置付け

本落札者決定基準書は、行田羽生資源環境組合（以下「組合」という。）が、新ごみ処理施設整備運営事業（以下「本事業」という。）を実施する民間事業者を募集・選考するに当たって、入札参加希望者を対象に配布する入札説明書に付帯するものである。

民間事業者の選定に当たっては、価格及びその他の条件（性能、機能、技術等）について審査したうえで落札者を決定する総合評価方式による制限付き一般競争入札を採用する。

本落札者決定基準書は、要求水準書等の内容に基づいて入札参加者から提出された提案書を可能な限り客観的に評価する基準として示すものである。

2. 落札者決定の方法

民間事業者の選定方法は、本事業の特性を踏まえ、価格に加え、施設の性能、機能、技術等の提案及び環境、安全、循環型社会への配慮等を総合的に評価する総合評価方式による制限付き一般競争入札とする。

本事業は、施設の設計・建設及び運営（運転・維持管理等）の各業務を実施するため、専門的な技術やノウハウにより、搬入される処理対象物を環境負荷の低減を考慮した方法で、安定的かつ効率的に処理するとともに、燃焼による熱エネルギーを利用した余熱利用等を行うものである。

このような事を踏まえ、本事業を実施する事業者の選定については、設計・建設、運営事業に関する技術、事業遂行能力及び入札価格を総合的に評価し、落札者を選定する。

3. 審査の枠組み

審査は、第1段階の「資格審査」、第2段階の「提案審査」で構成するものとする。第2段階の提案審査は、「基礎審査」、「非価格要素審査」及び「価格審査」で構成し、提案内容を総合的に評価したうえで落札者を決定する。

資格審査においては、応募者の参加資格要件の確認を行い、参加資格要件の充足を確認できた応募者が第2段階の提案審査に進むものとする。なお、資格審査を通過した応募者に対して、第2段階の提案審査前にリスク分担・リスク回避等に係る対話（競争的対話）を実施する。

提案審査においては、提案内容（非価格要素）の確認に当たり施設に対する考え方やプラント等の設計・建設を適切に行う基本的な技術力、安全対策等についてのヒアリングを実施する。

なお、入札の公告から契約締結に至るまでの流れは、図1に示すとおりである。

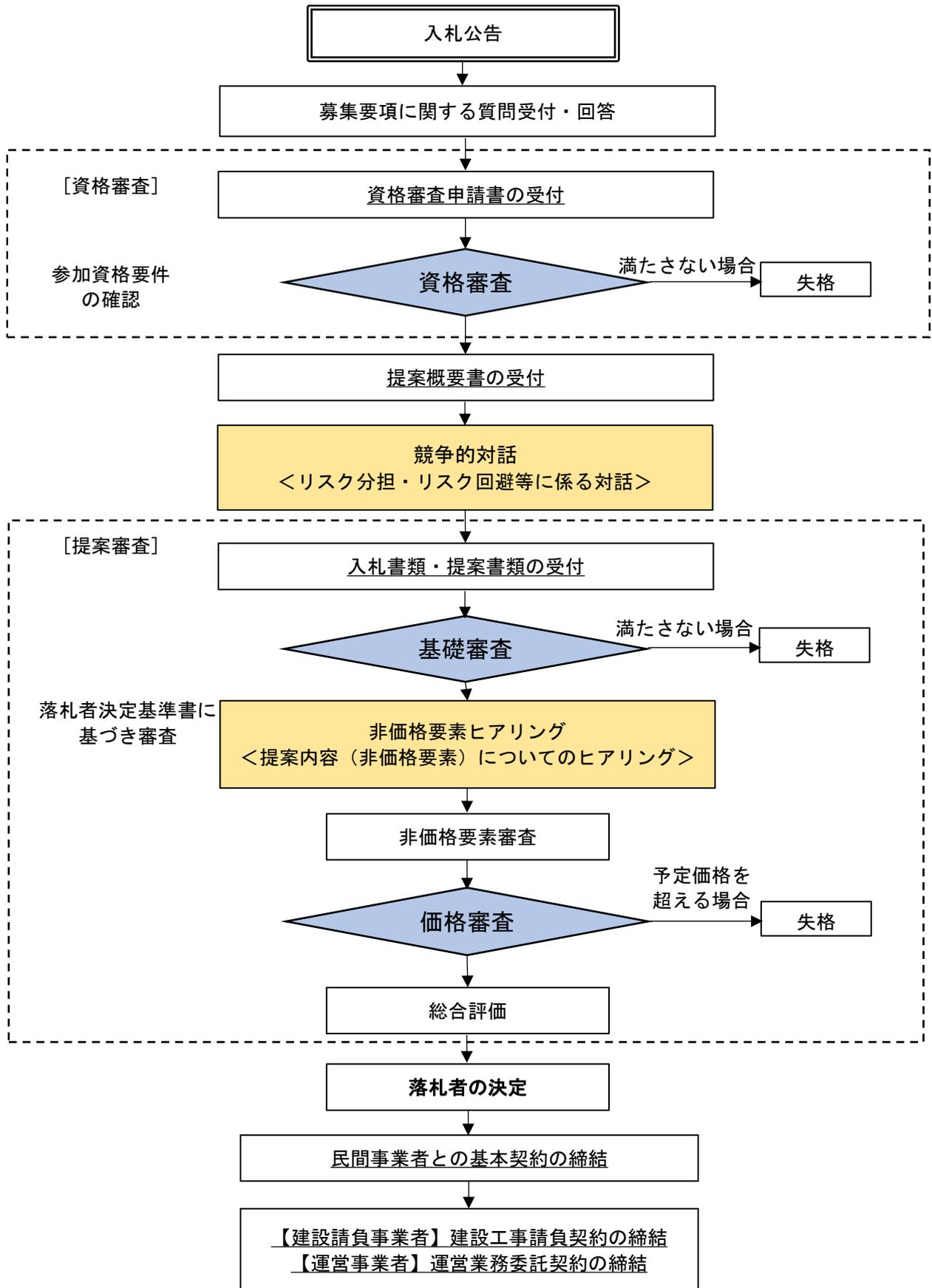


図1 契約締結までの流れ

1) 資格審査

応募者から提出された資格審査申請書等の内容が、入札説明書の「4章 応募者の入札参加資格要件」に示す入札参加者が備えるべき参加資格要件を満たしていることを確認し、結果を応募者に対し通知する。なお、参加資格要件を満たしていない場合は、失格とする。

2) 提案審査

(1) 基礎審査

入札参加者から提出された技術提案書及び事業計画書について、要求水準書等に示された性能要件を満足するか否か、事業としての妥当性を有しているかの審査を行う。以下に、基礎審査における確認事項を示す。なお、必要な提出書類がそろっていない場合及び要求水準書等に示す基準を満たしていない場合は、失格とする。

また、基礎審査において書類間の整合性を確認する必要がある場合は、入札参加者へのヒアリングを行う場合がある。

【審査の確認ポイント】

① 提出書類の審査

- 必要な提出書類がそろっているか
- 提出書類において、書類間の整合が図れているか

② 技術提案書と要求水準書の適合性

- 事業提案内容が要求水準を満たしているか

③ 事業計画書の妥当性

- 運営費がコストや収益の面から事業としての妥当性を有しているか

(2) 非価格要素審査

非価格要素提案書、技術提案書、事業計画書の内容を審査項目に基づき評価し点数化する。なお、審査に当たり入札参加者へのヒアリングを実施する。

(3) 価格審査

入札書に記載された金額が予定価格の範囲内であること及び事業計画書と入札書が整合していることの確認を行い、入札価格を点数化する。

なお、予定価格を上回った入札参加者は失格とする。

(4) 総合評価

組合は、選定委員会による審査結果を踏まえ、次のとおり落札者を決定する。

(2)の「非価格要素審査点」と(3)の「価格審査点」を加えて総合評価点を算出し、落札者を選定する。

$$\text{総合評価点} = \text{価格審査点} + \text{非価格要素審査点}$$

なお、非価格要素審査点の満点を50点、価格審査点の満点を50点とし、合計100点満点とする。

4. 価格要素及び非価格要素審査における点数化方法

1) 価格審査の点数化の方法

価格審査点の配点は、50点満点とし、以下の方法で得点を算定する。価格点の算定に当たっては、定量化限度額を設定し、定量化限度額以下で入札を行った場合は50点とする。なお、定量化限度額については、開札時に公表する。

【価格審査点の算出式】

■最低入札価格 > 定量化限度額の場合

$$\text{価格審査点} = 50 \text{点} \times (\text{最低入札価格} / \text{入札価格})$$

■最低入札価格 ≤ 定量化限度額の場合

$$\text{価格審査点} = 50 \text{点} \times (\text{定量化限度額} / \text{入札価格})$$

※得点は小数第3位を四捨五入して小数第2位まで算出する。

※入札最低価格: 入札参加者から提出された入札価格のうち最低の入札価格

※入札価格: 入札参加者から提出された入札価格

2) 非価格要素審査における点数化の方法

非価格要素審査点の配点は50点とし、以下の式により算出する。なお、得点は小数第3位を四捨五入した値とする。

(1) 評価項目の採点基準

各評価項目において、次に示す5段階により評価・点数化する。採点は、各選定委員会委員が個別に評価・点数化し、各委員が点数化した合計の平均点を技術評価点とする。なお、平均値を求める際は、小数第3位を四捨五入した値とする。

評価	評価内容	採点の算出方法
A	非常に優れている	項目ごとの配点 × 1.00
B	優れている	項目ごとの配点 × 0.75
C	具体的かつ適切な提案がなされている	項目ごとの配点 × 0.50
D	適切な提案がなされている	項目ごとの配点 × 0.25
E	優れているとは認められない	項目ごとの配点 × 0.00

(2) 評価項目と配点

評価項目と配点は次に示すとおりとし、各評価項目の得点の合算を非価格要素審査点とする。

評価項目		求める提案	配点
1. 環境負荷が少なく、循環型社会の形成に寄与する施設			[9点]
1-1 脱炭素社会に向けた貢献	温室効果ガスの排出量	● 施設の運営に伴い発生する温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいるか。	3点
	建築物として温室効果ガス排出量の削減に寄与する工夫	● 省エネ機器や建物の ZEB 化等に積極的に取り組んでいるか。	2点
1-2 資源物の品質の向上と効率的な処理	資源物の品質の向上と効率的な処理	● マテリアルリサイクル推進施設における資源物の品質を向上する工夫が提案されているか。また、効率的な処理が提案されているか。	4点
2. ごみ処理の安定性に優れ、災害に対しても強靱な施設			[19点]
2-1 ごみ量、ごみ質の変動への対応	ごみ量、ごみ質の変化への対応	● ごみ焼却施設について、長期的なごみ量及び低位発熱量の変化に対して、安定的に処理を行う方法が提案されているか。特に、低負荷運転や低質ごみに対する適切な処理が提案されているか。 ● マテリアルリサイクル推進施設について、季節変動によるごみ量の変動等に対して、安定的に処理を行う方法について提案されているか。	4点
2-2 災害対応	災害への対応	● 災害対応(管理・連絡・運転体制等)が提案されているか。 ● 災害発生後、運転や復旧を最短で行うための具体的な方策が提案されているか。 ● 災害廃棄物の受入、保管、処理について、具体的な方策が提案されているか。	2点
2-3 施設の安全性等	安全対策	● ごみ焼却施設及びマテリアルリサイクル推進施設の火災等に係る安全対策として、設備面及び運営面等での対策(特にリチウムイオン電池等に起因する火災)について提案されているか。 ● 労働災害を未然に防ぐための対応が提案されているか。	2点
	リスク管理	● 施設の安定稼働に対するリスク管理について、リスク管理方針、リスク管理体制及びリスク回避の方策が具体的に提案されているか。 ● セルフモニタリング(提案内容の履行確認を含む)方法や内容等が具体的に提案されているか。	2点
2-4 運転体制、人員配置計画	効率的な人員配置と役割分担の明確化	● 円滑な施設運営を行うための効率的な人員配置が提案されているか。 ● 組織体制及び運転管理体制、役割分担が明確に提案されているか。	4点
	運営ノウハウの継承及びその後のサポート体制	● 運営期間終了後における運営ノウハウの継承やその後のサポート体制等の提案がされているか。	2点
	職員への教育	● 施設の運営に従事する職員への教育が経験に応じた適切な提案となっているか。	1点
2-5 経営計画及び事業収支計画	事業の継続性	● SPC の事業継続性の担保が提案されているか。	2点
3. 環境保全に配慮し地域と調和した施設			[14点]
3-1 公害防止対策	公害防止基準に関する対応	● 公害防止基準を遵守するための方策(ごみ焼却施設の排ガス及びその他必要な項目)と運転監視方法(測定項目、頻度及び箇所等)が適切に提案されているか。	3点
3-2 施設の外観及び景観	施設の外観及び景観との調和	● 華美にならない範囲で、周辺環境や景観と調和した外観が提案されているか。	2点
3-3 配置計画及び動線計画	施設の配置計画及び動線の工夫	● 施設の配置計画及び車両、歩行者、見学者の動線について工夫(安全性、スムーズさ、分かりやすさ)した提案がされているか。	4点
3-4 地元経済への貢献	地元企業の活用・市内人材の雇用	● 地元企業の活用と市内人材の雇用について方針、考え方及び発注内容が具体化されているか。 ● 地元企業の活用と市内人材の雇用に最大限配慮した計画であるか。	5点
4. 効率的にごみ処理を行える施設			[8点]
4-1 余熱利用計画	熱回収	● 稼働計画を踏まえた適切な運転を前提として、妥当性のあるエネルギー回収率(ボイラ蒸気条件、定格発電出力、発電効率を含む)が提案がされているか。 ● 売電量を最大化するための設計面及び運営面の取組について提案されているか。	3点
	将来的な低温排熱の利用を見据えた柔軟性	● 将来的に低温排熱を利用するための工夫等について提案されているか。	1点
4-2 施設の長寿命化	長期的な施設の維持管理	● 運営期間終了後に大規模な修繕・補修を集中させないような維持管理計画が提案されているか。	4点
			計 50 点